

ビルマ/ミャンマー緊急難民救援基金終了のお知らせ

ビルマ/ミャンマー緊急難民救援基金は、2月いっぱいをもちまして終了いたします。日本からの寄付として、合計約 369,045 バーツ (1,151,421 円)) を送金することができました。みなさまには、深いご理解と温かいご支援をいただき、心から感謝を申し上げます。緊急難民救援基金としてはいったん終了としますが、タイ・ビルマ/ミャンマー国境では戦闘は収まる気配を見せず、依然 8000 人~1 万人前後の住民が避難生活を送っています。

JAM は今後もメータオクリニックと Emergency Relief Team (緊急救援チーム) を応援していきます。

避難民の現状とメータオクリニックの支援

【避難民流入の状況】

- '10/11/7 ミャンマー総選挙
- '10/11/8 Myawaddy にて戦闘の勃発→避難民 25,000 人のタイ流入
- '10/11/14 Pho Phra 地域にて戦闘開始
- '10/12/15 Manerplaw にて戦闘開始
- '11/1/21 戦闘地域の南下に伴い Pho Phra 地域にて避難民流出活発化。避難民数は 9997 人
1/16~18 で 1172 人が新たに Pho Phra 地域に流入

*メータオクリニック Emergency Relief Team の報告より (Update Population 21/012011)

【メータオクリニックの避難民支援】

- 調理食料と水の供給
- 乾物食料 (米、塩、魚缶、豆等) の供給
- 毛布、蚊帳、マットの供給
- 衛生用品の配布
- 日用品の配布 (バケツ、皿、米入れ、カップ等)
- 保護チームの派遣 (行方不明者の対応など)
- 教育チームの派遣 (避難中の子どもの教育)
- 情報収集と地元住民組織との連携 (Forum of Community Based Organization Burma)

【収支 (1月15日時点)】

予算総額		2,752,159	バーツ
すでに使用された事業費	計	804,370	バーツ
内訳			
救援物資 (食料、水、毛布、蚊帳など)		579,266	バーツ (72.0%)
事務費 (交通費、通信費、報告書など)		225,104	バーツ (28.0%)



*"Emergency Funding for New Influxes of people Fleeing Post-Election Conflict to Thailand" 報告書より

【Pho Phra 地区 Leh Haw 村 River Site 避難地の様子】

Leh Haw 村メソトより約 40km 南へ位置し、もともと川をまたがって位置するカレンの村で、今回の戦闘後、川岸に沿って避難地となっていた。Leh Haw 村の村長が避難地の責任者として緊急救援隊に避難民数の報告を行っていた。

Leh Haw 村 River Site 避難地 (2/2 時点)

家族数 105 (前日 2 家族到着)

人数 422 人

9 歳以下の子ども 179 人



避難民の様子

47 歳女性



Lah Haw 村のややはずれ（ビルマ側）で夫と 5 人の子どもと住んでいた。
上の 2 人の子どもは結婚して独立している。
生計は農業と日雇い労働。家を持っていた。
11 月中旬戦闘が始まったが臨月だったので最初は避難を躊躇した。
その後周りに誰もいなくなったので walay（メソトより南へ約 20km）に避難。
近所の人には会えずに、さらにそこでも戦闘が始まったのでここに来た。
移動中にサトウキビ畑で子どもを産み自分で処置をして血だらけでここへ来た。
この避難地へ来て 2 ヶ月くらい。
夫と 4 人の子ども分の食料は配給で賄っている。



避難民一家

【現状と今後】

避難民は、木材やバナナの葉と救援物資のビニールシートなどを組み合わせた、手作りのシェルターで生活している。米、油など、乾燥食料は支給されているが、十分とはいえない。戦闘が場所を変えながら頻発していること、タイ政府からの締め付け、などの理由から、住人は隠れながら頻りに移動するため、数の把握とそれに基づく食料や必要品の分配が大変困難なものとなっている。今後季節は厳しくなるばかり。酷暑の夏とその後続く雨期がせまっており、移動避難生活の慢性化は特に弱者である子どもの健康に大きな影響を及ぼす。戦闘が終息する兆しを感じぬまま、大人たちの顔には不安と疲労が伺えた。また、現在はまだ一時避難であるが、この状態が慢性化すれば、避難民たちは家畜や農地といった生きる術を失い、自活できない「難民」となってしまう。

メータオクリニックは、医療、食料といった人道支援を通じた、避難民の保護をおこなっている。避難地にヘルスワーカーを配置し、交代で生活をともにしながらケアを行うなど、弱者に寄り添った活動を心がけていた。しかしながら、消耗品や食料の配給を長期間続ける余力はない。戦闘の終了と避難民の安全を保障された状態での帰宅が待たれている。